帯広工業高から感謝状

遊佐組　測量機器寄贈で

【帯広発】㈱遊佐組（池田、遊佐俊治社長）は1日、同社で帯広工業高校の大西益己校長から測量機器寄贈に伴う感謝状を受け取った＝写真＝。レベルやセオドライト、トータルステーションを合わせて7台の寄贈に対するもの。遊佐社長は「土木の未来を担う高校生が測量技術を学ぶ際に役立ててほしい」と期待を寄せた。

同社は昨年、同校環境土木科生徒のインターンシップを受け入れた。打ち合わせで同校を訪問した際に測量実習の様子を見学。台数の少ない測量機器を複数の生徒で使用するなど生徒数に見合う測量機器の備えがないという学校の実情を知った。

同社は、高校生が充実した学びの機会を得て土木技術者として活躍できるようにとの思いから測量機器の寄贈を計画。レベルやセオドライト、トータルステーションを合わせて7台の測量機器を同校に寄贈することとした。

1日に大西校長が同社を訪問。遊佐社長が測量機器の目録を手渡した。また、測量機器の寄贈に伴い、大西校長が遊佐社長に感謝状を手渡した。

大西校長は「予算の都合上、十分な測量機器を用意するのが難しかったのでこの厚意は大変ありがたい。実習で役立てていく」と感謝した。また、同校卒でこの春同社に入社した西川侑希さんは「一台でも故障すると実習が円滑に進まなくなっていたので、今回の寄贈は充実した測量実習に寄与するもの」と話した。

感謝状を受け取った遊佐社長は「土木の未来を担う高校生の実習環境が改善され、測量技術を磨く際に役立ててほしい」と期待を寄せた。